

大塚ホールディングス株式会社 2016年度第3四半期決算

質疑応答要旨

2016年11月11日

Q1: 2016年度通期計画の修正において、粗利益が50億円上方修正されている。これは利益率の高い製品の売上が増加した影響か？

A1: その通り。

Q2: サムスカ/ジンアークの通期売上計画が上方修正されているが、為替以外の要因はあるか？

A2: グローバルで売上が順調に推移しており、通期計画を上方修正した。

Q3: ロンサーフの通期売上計画が上方修正されているが、米国での売上増加を見込んでいるのか？

A3: 米国での売上増加をやや保守的に見込んでいる。

Q4: エビリファイメンテナの足元の売上実績が減少している要因は？

A4: 競合環境が激化している。

Q5: カロリーメイトゼリーの自主回収について、業績への影響は？

A5: 今回の自主回収についてはお客様及び関係者に多大なるご迷惑をおかけした。深くお詫び申し上げます。業績への影響は軽微。

Q6: SGI-110の治療効果は比較的マイルドな印象があるが、現在開発中の急性骨髄性白血病（AML）の適応で承認されるか？

A6: 現在実施しているP3試験は高齢者初発のAML。承認されるかどうかは試験結果次第。今後、再発AMLと再発骨髄異形成症候群（MDS）を対象にP3試験を実施予定。

Q7: 米国エビリファイの特許訴訟に関連してテバ社から和解金を受領していると思うが、医療関連事業の北米の売上高から開示している主要製品の売上を差し引くと、その金額は100億円ほどと推察される。この金額は正しいか？

A7: 具体的な金額は非開示。

Q8: 米国におけるロンサーフの処方箋の伸長が鈍化しているが、売上は現在の状況で安定していくと考えてよいか？ターゲット医師のカバーの状況は？

A8: ターゲット医師のカバーの状況は非開示。まだすべてのターゲット医師をカバーできている訳ではないため、今後の売上は現在の状況をベースに考えてもらえればよい。

Q9: MSD社と、国内の販売提携をしているキイトルーダについて、胃がんの適応症についてはいつ契約するのか？

A9: 現在契約の対象となっている適応症はメラノーマと非小細胞肺癌。胃がんの契約については未定。

Q10: レキサルティについて、アルツハイマー病のアジテーションに対するP3試験の終了時期が3-4か月早まっているが、順調に進捗しているということか？申請時期はいつごろを予定？

A10: 順調に登録が進んでおり、試験終了日程の予定を早めた。申請時期は非開示だが、臨床試験の結果は2017年度中に判明する予定。

Q11: エビリファイメンテナの売上について、2016年第3四半期の実績は落ち込んでいるが、第4四半期には売上が増加基調に戻る計画となっている。その理由は？第3四半期で何か特殊要因があったのか？

A11: 第3四半期で特殊要因があった訳ではなく、激化する競合環境の影響を受け一時的に成長が鈍化している。今後はマーケティング活動を更に強化し、売上成長につなげたい。

Q12: 米国エビリファイの特許訴訟に関連したテバ社との和解金は、当初の計画に入っていたか？

A12: 当初の計画には入っていない。

Q13: 第二次中期経営計画における2018年度の営業利益について、当初計画の2,000億円から後発事項の影響を加味した参考値として1,700億円±αが提示されていたが、現時点の状況を鑑みると元々計画していた2,000億円を超過するのではないか？

A13: 新製品群などは順調に成長しているが、今期の営業利益の上振れは、研究開発費が未達及び期ずれしていることや和解金など特殊要因の影響もある。また、今後は更なる成長投資も必要と考えている。このため、現時点では、2018年度の営業利益見通し（参考値）1700億円±αに変更はない。

Q14: 9月に国内で新たに承認されたエビリファイの自閉症の適応追加、アイクルシグ、ミケルナ、及びビラノアの売上見込みは？どの薬剤が一番売上に貢献すると考えているか？

A14: 現段階ではっきりとした数字はコメントできないが、今期についてはまだ大きな売上は見込んでいない。次期中期経営計画には貢献するべく、今後それぞれの製品に対する施策を進めていく。

Q15: ニューデクスタの足元の売上の伸びが平準化してきた。今後もこの程度の伸びで進捗する見込みか？

A15: 売上の伸びが平準化していることは認識。販売活動は引き続き強化していく。

Q16: 会計基準が国際会計報告基準（IFRS）に変更されることで持分法損益125億円が営業利益に加算されるということだが、セグメントごとの内訳は？消費者セグメントは大幅な黒字化となるのか？

A16: IFRSを適用することによる営業利益の増加について、セグメントごとの内訳は開示していないが、消費者セグメントの増加分は大きい。

Q17: エビリアイメンテナの競合品であるアリストターダの処方広がっているようだが、どのような医療機関で受け入れられているのか？

A17: 詳細な分析は非開示。競合環境が激しくなることで一部価格面での競争は起きている。

Q18: AVP-786の大うつ病での開発中止について、詳細をご教示下さい。

A18: 詳細なデータについては未発表のためコメントできない。新たに開始している統合失調症残遺症状や脱抑制などの他の適応症の開発にリソースをシフトする。

Q19: OPA-15406はファイザーが買収したAnacor社の薬剤と同じカテゴリーのPDE4阻害剤。外部からの評価は？

A19: OPA-15406については米国における開発・商業化の権利を既にメドメトリックス社に導出済み。